

「Global TB Report 2021」について

結核予防会

国際部 菅本 鉄広

世界保健機関（WHO）が発表した「世界結核レポート2021（Global TB Report 2021）」によると、COVID-19の世界的流行は、結核への取り組みにおける長年の世界的な進歩を逆戻りさせ、2005年以降で初めて結核による死亡者が増加しました。2020年には2019年と比較して、結核で亡くなる人が約10万人増加し、診断、治療、または結核予防治療を受けている人ははるかに少なく、重要な結核サービスへの全体的な支出も減少しています。

大きな課題として、結核サービスの利用の低下と結核サービスに用いられる資源の減少が挙げられます。多くの国では、人的、財政的、その他の資源が結核対策からCOVID-19対策に割かれ、必要なサービスの利用が制限されています。さらに、COVID-19対応によるロックダウンが結核の診断・治療を非常に困難にさせたことが考えられています。

2020年のCOVID-19の世界的流行によって多くの保健医療サービスの利用が減少しましたが、結核への影響は特に深刻と言えます。

結核サービスの提供とアクセスに関する課題は、2020年に結核患者の多くが診断されなかったことを意味します。結核患者の新規患者登録数は2017年から2019年の間では増加傾向が見られましたが、2019年から2020年の間に710万人から580万人と18%も減少しており、これは2012年の水準に逆戻りしたことにな

ります。この減少の大半を占めたのはインド（41%）、インドネシア（14%）、フィリピン（12%）、中国（8%）でした。また、結核患者（2020年）の56%が男性、33%が女性、11%が15歳未満の小児でした。

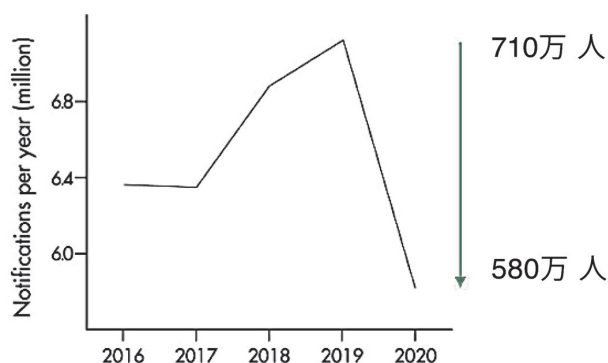
また、結核の診断と治療へのアクセスが減少し、結核による死亡が増加しました。2020年には推定150万人が結核で亡くなりました（HIV重複感染の推定21.4万人を含む）。COVID-19は、長年にわたる結核対策の進展を逆戻りさせ、2005年以来初めて前年比で増加（5.6%）に転じ、2020年の総死亡数は2017年のレベルに戻る結果となりました。また、モデルによる予測では、2021年と2022年にさらに悪化する可能性を示唆しています。

報告書では、2020年に410万人の結核患者が診断されていないか、もしくは国に報告されていないと推定されています。この数字は2019年の推定値（290万人）から増加しています。

薬剤耐性結核の治療を受けた人の数は15%減少し、2019年の17.7万人から2020年には15万人となりました。これは推定患者数の3人に1人は有効な治療を受けることができなかった事を示しています。

結核の予防的治療については、2019年の360万人から2020年には280万人と21%も減少しました。また、2020年にはHIV陽性者230万人と結核患者の家庭内接触者50万人が予防的治療を開始しました。

2016～2020年における
世界の新規登録結核患者数の推移



出典：Global TB Report 2021

2015年以降、25カ国が結核患者とその世帯が直面する家計負担に関する国別調査を実施しています。そのうち23カ国（結核高まん延国30カ国のうち14カ国を含む）が結果を報告しており、壊滅的なコストに直面している割合は、国ごとに幅があるものの、おおよそ47%でした。

結核を発症させる主なリスク要因としては、栄養不良、HIV感染、アルコール使用障害、喫煙（特に男性）および糖尿病の5つが挙げられています。

報告書は財政についても述べています。結核の診断、治療、予防サービスに対する世界的な支出が58億ドル（2019年）から53億ドル（2020年）に減少したことを指摘しています。これは2020年までに年間130億ドルの資金を提供するという世界目標の半分以上（41%）の額になります。低・中所得国は、国際的なドナーからの資金援助が依然として重要です。毎年、平均で9億ドルが提供されており、主な資金源は世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）になります。

結核の研究や技術革新の強化にも触れられており、新しい結核診断薬、医薬品、ワクチンの開発が進んでいます。2019年の全体的な投資レベルは9億ドルで、世界目標の年間20億ドルには程遠い状況です。

COVID-19が国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態として宣言されて以来、WHOの世界結核プログラムは、このCOVID-19の世界的流行が結核サービスに与える影響に注目してきました。それと同時に、各国の結核対策プログラム及び支援パートナーに対してサポートを行ってきました。WHOはCOVID-19と結核対策に対し、次のように助言しています。

- COVID-19対応のために、迅速検査と接触者健診において結核対策で得られた知識と経験の活用
- デジタル技術利用の拡大による結核患者の遠隔診療とサポートを最大化
- WHOが推奨する経口薬だけで完結するレジメン（治療計画）の採用による、医療施設への訪問回数最少化と地域密着型のケア
- 医療スタッフや患者の基本的な感染予防・管理、咳エチケット、患者トリアージを徹底することで、密集環境や医療施設での結核やCOVID-19の感染を制御

- COVID-19に関連する接触者健診の取組みとの相乗効果による結核予防治療の提供支援
- 必要に応じて結核検査ネットワークやプラットフォームを活用し、結核とCOVID-19の同時検査を提供
- 物資の調達、リスク管理の両面で、積極的な計画と予算化

WHOの世界結核Bプログラム責任者であるテレザ・カサエバ博士は報告書の中で次のように述べています。

「2018年の第1回国連結核ハイレベル会合で各国首脳が約束した歴史的な2022年結核目標まで、あと一年となりました。COVID-19の世界的流行はこれまでの結核対策の成果を逆転させ、結核との戦いを数年前に後退させました。私たちは、この古くからある病である結核の影響を受ける何百万人が必要としている予防と治療サービスの格差を早急に解消するために、希望を持ち、努力と投資を倍増させる必要があります。」
「今回の報告書は重要な情報を提供しており、2023年に開催される第2回国連結核ハイレベル会合の準備を進める上で、非常に重要なことです。」

報告書は結核終息に向けた中間目標や世界目標が、COVID-19の世界的な流行によって大きな打撃を受けていることを示しました。また、各国に対して結核サービスへのアクセスを回復するための緊急措置を実施するよう求めています。さらに、研究と技術革新への投資を倍増させ、結核を取りまく社会、環境、経済的な決定要因に対応するために、保健分野をはじめとする様々な分野で協力して行動することを求めています。

最後に、今回の報告書は197の国と地域のデータを基に作成されました。多くの国では、新規結核患者数を毎月リアルタイムでWHOに報告しており、これはCOVID-19の良い意味での副産物と言えるでしょう。また、昨年と同様にスマートフォンのアプリ（Google PlayやApple Storeより“TB Report”アプリを無料で入手可能）から各国の状況を簡単に知ることができず。